〔江戸名所圖會八〕明顯山祐天寺〇中略　開山大僧正長悅像開山小石川の傳通院在住の頃、元祿年中、大將軍家御前において法問說法あり、しを、瑞春院殿御感賞のあまり、御親刻ませ給ひしを、上覽ましまして、長悅と呼べしと上意あり、て、鶴姫君樣へ進ぜられ、御雛祭の首席につらねさせ給ひしを、其後祐海上人へ給はりて、當寺に收む、此故に毎年三月當寺にて、雛祭の儀式執行事あり、

〔昔々物語〕一昔は、〇中略　三月は男子は鷄合とて、鷄を持出出會、女は雛遊とて、雛をかざり食事を備へ、色々の諸道具を飾り、草餅を雛の行器に入、甘酒を錫の器に入、小蛤等澤山に、節句の禮として雛を乘物に乘せ、樽行器持て、親類の親方へ遣す、是は成人の時娶入して、世帶持の稽古なり、當分の事にあらず、

〔年中行事故實考四三月〕串あさり　木の葉かれい　三日ひなに備ふ、京都にては、草の餅の上に、木の葉かれいをならべ祝とす、是又質素の風にして、正月の饌具と同じ、

〔嬉遊笑覽六下兒戲〕相摸愛甲郡敦木の里にて、年毎に古びなの損じたるを兒女共持出て、さがみ河に流し捨ることあり、白酒を一銚子携へて、河邊に至れば、他の兒女もこゝに來り、互にひなを流しやることを惜みて、彼白酒をもて離杯を汲かはして、ひなを俵の小口などに載て流しやり、一同に哀み泣くさまをなすことなり、此あたりのひな、內裏びなは異なることなし、其外に藤の花をかづける女人形多し、おもふにひなを河水に流すは、もと祓除のことによるなるべし、妹背山淨るりに、ひなの道具を水に流すことあるは、作り設しこと、のみ思ひしに、かく似たることもあり、

〔ひな人形の故實〕子の日比々奈祭とて、女子生て初の正月子ノ日、又は百日にあたる日に、御ひな并御けんぞくの人形多、ひな諸道具、甑び品々釣臺乘、酒肴、赤飯、草餅等を、親るい遊友だちへくばり持行奉獻、三月上巳節供に勤候はゞ、則ひな便りといふ、

〔骨董集上編下前〕ひいな草　貞享三年著、婦人養草、卷一船にのるものは、雛一對をもちて海上をわ